



# 令和2年度の決算を審査する「決算特別委員会」を開催

## 議会が認定しました！

委員長  
副委員長

杉田一男  
片股敬昌

12月定例会では、村長から提出された「令和2年度決算」の審査を行うため、令和3年12月9日から10日にかけて決算特別委員会が開催されました。「予算の使い方は適正かつ効率的であったか？」次年度の予算編成に生かすため、審査を行いました。委員からどのような指摘・要望があったのか、その一部をご紹介します。

### 寄附金について（清水）

**問** 寄附金が伸びてきているがその内容は

**答** 企業から大口寄附金を頂いている。  
(財政課長)

### 心身障害者・老人福祉（清水）

**問** 執行率が低い気がするが

**答** 毎年一定ではないので状況により上下する。コロナ禍による事業未実施が大きい。  
(村民課長)

### 職員研修・健康診断（安藤）

**問** 村役場職員の研修はどのように行っているのか。産業医の職場巡視は誰が行っているのか。職員の健康診断を実施するにあたってのコストダウンは何か図っているのか

**答** 新規採用、新規管理職研修を研修所へ派遣。内地の有資格者の産業医を招聘し、年4回の職場巡視。村内の事業所と協力して同時に実施している。(総務課長)

### キャッシュレス推進（築館）

**問** なかなか進んでいないようだが現状は

**答** 端末導入の説明会や決済事業者のキャンペーンなども利用していただいている。少しずつではあるが増えてきている。  
(産業観光課長)

### 硫黄島（安藤）

**問** 遺骨収容に必要な重機の維持管理について車庫などの設置は

**答** 硫黄島で建築物を造るのは難しい。費用対効果を検討する。(総務課長)

### 滞在型観光促進事業（清水）

**問** 具体的な事業内容は、またその効果は

**答** 長期滞在の魅力発信のためにインフルエンサーの招聘や映像作成、クーポン券の発行などを行った。効果については数値的には難しいが反響はあった。引き続きこういった方々から情報を集めていく。  
(産業観光課長)

### CATV（安藤）

**問** CATV放送網をもっと活用して、決まったイベントだけではなくタイムリーにいろいろな内容の放映を検討願いたい

**答** 番組の放映については、村のケーブルテレビ審議会でも審議・決定しているので、ご意見をうかがって対応を検討する。  
(総務課長)

### 防災備蓄品（片股）

**問** 粉ミルクや紙おむつなど、消費期限が来たものはどういった活用をしているか

**答** 入れ替えのタイミングで母子・介護事業で有効に使う。ポータブルトイレやカセットコンロなども備蓄している。  
(総務課長)

## 次世代を担う子供たちの教育（清水）

**問** G I G Aスクール事業において整備した情報端末を使った今後の教育についてどのように考えているか

**答** 機器の整備で終わらずに、今後は子供たちの学力向上のためにこの端末を有効に活用していくための方法を考えていく。  
(教育課長)

## 文化財保護（安藤）

**問** 島内にあるいろいろな歴史資料の電子化が早急に必要だと思う。また文化財保護審議会の開催状況は

**答** 電子化の対応は必要。資料の把握・優先順位など選別が難しい。村として後世に残すべき資料は配慮していきたい。審議会は年1回開催。2年度は書面開催で行った。  
(教育課長)

## 災害復旧費の執行（安藤）

**問** ここ数年災害復旧費の執行が思うように進んでいない。やむを得ず翌年度に繰り越した事業などについては、決算委員会の現地視察の際に再度確認させてほしい

**答** 次回以降、決算委員会と調整したい。  
(財政課長)

この件に関しては、令和2年度決算特別委員会杉田一男委員長からも、視察に向けてはこれまで以上に準備をしっかりと行ってから望もうと意見がありました。

決算特別委員会からは特に以下の点を指摘し、令和2年度決算についてはすべて認定すべきと議長に報告しました。

### 決算特別委員会からの指摘事項

- ・村所有の施設・住居・物品・車両等は、引き続き適正な管理を
- ・未執行事業を発生しないよう、適正な予算の作成、執行を
- ・行政需要が増す中、村職員の人材育成と定数管理も含めた効率的な施策の検討を
- ・決算の審査における事業地の視察において、事前準備をしっかりと行うこと

この委員会の報告を受け、本会議において採決を行い、すべて認定しました。

## 一般会計決算

歳入総額	58億4,622万4,557円
歳出総額	55億3,549万1,785円
歳入歳出差引残額	3億1,073万2,772円

## 特別会計決算

歳入総額	13億8,673万3,926円
歳出総額	13億8,665万4,668円
歳入歳出差引残額	7万9,258円

特別会計には国民健康保険や簡易水道事業、介護保険など、合計8の特別会計があります。

村の決算の詳細は、小笠原村役場ホームページでも確認することができます。

## 築館俊一議員



### 軽石問題について

**築館議員** 世間やマスコミ報道などでニュースになっている福徳岡ノ場から発生した軽石について、どのように考えているかお聞きしたい。また、伊豆諸島などに被害が出ていると聞きます。定期船おがさわら丸の航路に影響は出ないのか。島民の安全安心を先に考え、早めに手を打つべきだと思うがいかに考えるかお聞きしたい。

**村長** 軽石の漂着につきましては、沖縄県や伊豆諸島などの例が報道されていますが、村内では目視による確認で若干ながら海岸に漂着しているとの情報はあるものの、被害につながるような量の漂着状態にはなっておりません。定期航路につきましては、運航事業者を確認いたしましたところ、現状では運航に支障はなく、通常の運航を維持できているとのことです。

**築館議員** 沖縄などでは漁港が軽石で埋め尽くされて、漁船が出航できない状況なども伝えられていますが、小笠原の場合は大丈夫なのか対応状況を伺いたい。

**総務課長** 漁業の対策としては、漁港への軽石の漂着を防ぐため、東京都によりオイルフェンスを設置する用意がされていると聞いております。軽石漂着の恐れが生じた場合には漁業協同組合等と相談の上、対応いただけると聞いていますところですが、現在そのような事態には至っておりません。軽石の漂流、漂着につきましては予想が難しいところではありますが、今後も情報収集に努め、その動向には注意してまいります。

## 安藤重行議員



### 1 平和の鐘周辺の丁字路の変更等について

**安藤議員** ①港湾道路と都道 240 号線の交わる所が危険なので進入角度を変更する話の進捗状況は。

②通学路として路側帯と道路の問題等教育委員会でのルート指定は。③八街で通学時に、飲酒運転による 5 名の子供の死傷事故でも問題になったガードレールの設置を村は関係機関へ働きかけたのか。④津波災害緊急避難場所進入路への横断歩道の設置は協議されたか。また、交通安全について村の考えは。

**村長** ①事故当時現場に居合せた。安全対策が必要で、都へ要望、関係機関と調整を図る。今年度中（後日変更有）工事完成予定。

**教育課長** ②③地域要望もあり 2 ルートを指定。ガードレールの要望はしていない。定期的に交通安全・防犯対策等の調査を実施し関係機関とも合同点検をしている。

**総務課長** ④協議した。交通安全確保は大切。関係機関各団体村民と協力し取り組む。

### 2 感染症全般の発症に伴う診療所の隔離体制について

**安藤議員** ①村としての感染症対策は。②コロナが沈静化時、PCR 検査機材・施設の確保等、飲み薬や点滴薬、コンテナの宿泊療養型隔離病棟の対策が必要では。

**村長** ①基本、感染症を広げない。感染した患者への対応。村民の不安解消。安心感の提供と考えている。そのための施策を協議検討し、感染防止に努めている。

**医療課長** ②コンテナハウスを設置し抗体カクテル療法、本土への搬送者の一時滞在場所を確保。母島ではエアータントの設置で対応。

# 一般質問

## 稲垣 勇議員



### 外来種対策について

**稲垣議員** 集落ではネズミが網戸を突き破って家の中に侵入するなど、生活に支障が生じている。特に夕方に頻繁に目撃し、ネズミが増えている印象だ。有人島におけるネズミの駆除と実情、そして今後の対応について伺いたい。

**環境課長** 日頃から村民の声を多くいただき、ネズミ対策を強化・推進する必要があることを痛感している。年2回の有人島の一斉防除、かご貸無料貸与事業、殺鼠剤等購入費補助事業を実施。また令和3年度からは農業者を対象に殺鼠剤ベイトステーションの無料貸与を開始した。このほか、関係機関において各種対策を実施しているが、対象規模の大きさ、駆除の技術的な問題、社会的合意形成など課題が多い。当面は被害の抑制を目下の課題とし、村民が許容できない被害の増加を抑える事業を継続的に実施していく。

**稲垣議員** 農家からネズミによる農業被害の相談は。また状況、対策についてはどうか。

**産業観光課長** 直近5年間のいずれの年も、農作物の被害状況は鳥獣類の中でネズミが最大。ネズミ食害対策事業費補助金にて対策を続けている。

**稲垣議員** 殺鼠剤の購入補助を今後も続けて頂きたい。

## 清水良一議員



### ICT 推進とホームページについて

**清水議員** ICT 推進のための窓口としてホームページは大きな役割を担っている。障害者やお年寄りにも利用しやすいホームページ構築を要望する。①現状の管理運営状況は？②「問い合わせ」および「村民の声」わかりやすくハードルを下げた改善。③村民だより、村民便利帳との情報共有と月1回は各課のページをチェックし最新情報を更新していただきたい。④お年寄り等現在 ICT を活用されていない方へのボトムアップを。

**総務課長** ①総務課情報通信係が管理運営をし、年間70万円強の予算、閲覧数平成30年度24万6千件、令和元年度34万9千件、令和2年度63万7千件、2年前にスマートフォン対応にリニューアル②やり方については今後検討。③常に新しい情報を村民の皆様にお届けできるよう努力をしていきたい。④東京都の支援事業として「高齢者スマートフォン普及啓発事業」という事業があり応募を検討。

### ゼロエミッションに向けた取り組みについて

**清水議員** COP26では日本を含む多くの国が2050年までにCO2排出量を実質0にし、東京都は2030年度までに50%の削減を掲げた。しかし小笠原村温暖化対策実行計画では2030年までに26%の削減になっている。さらなる取り組みが必要では？

**村長** 基本的に国、東京都の動きに協調し、効果コストを見極め村が模範となるよう取り組む。

## 新型コロナウイルス感染症対策

9月の委員会以降の国・東京都・村の対応などについて報告を受けました。

## 新型コロナウイルス一掃期間協力金の申請状況について

8月から9月にかけて行った、「村内コロナウィルス一掃期間」における、支援策である新型コロナウイルス一掃期間協力金の給付状況について報告がありました。

(申請金額は約6,900万円でした)

## 東京都及び東京都住宅供給公社との住宅モデル事業について

東京都、東京都住宅供給公社、小笠原村によって、今後実施予定のファミリー向け住宅モデル事業(父島西町4戸整備)について、これまでの経過と今後の予定の報告がありました。

現在、住宅建設に向けた設計を行っており、4月以降建設工事が始まる予定です。

## ははじま丸ドック中の代替船について

ははじま丸ドック中の代船ゆり丸の後継船「くろしお丸」の概要、建造状況について報告がありました。

本船については、1月下旬から2月下旬にかけて運航予定となっております。

## 小笠原諸島世界自然遺産

関連する主な会議のスケジュール、愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する条例(ペット条例)、世界自然遺産10周年記念事業、オガサワラカワラヒワの保全状況について報告、質疑がありました。

# 小笠原航空路開設推進特別委員会 12月9日

9月の委員会以降の航空路開設推進に関する動きについての報告がありました。

9月定例会以降の硫黄島に関する動きについて報告、質疑がありました。

## 遺骨収集帰還事業

▶通年実施している滑走路地区の掘削作業、遺骨収集作業等のスケジュールについて報告がありました。遺骨収集は4回実施する予定の3回目が終了しました。

## その他の報告

- FCLP空母艦載機離着陸訓練
- 海上自衛隊訓練のHRS訓練、LCAC訓練
- 基地交付金・調整交付金の報告  
など

## 議長出張報告



出張日	出張先、会議名	出張の用務
10月19日	小笠原村観光局事業報告会（Bしっぷ～母島支所会議室）	会議出席、ほか議員6名
11月26日	東京都島しょ町村議会議長会臨時総会（島嶼会館）	会議出席
	町村議会議長全国大会（明治記念館）	
	環境省	世界自然遺産関連予算枠拡大を求める要望活動
12月16日	小笠原海運	意見交換（村長同行）
	「小笠原を応援する会」所属国会議員事務所	意見交換（村長同行）
12月20日及び22日	東京都関係各局	意見交換（村長同行）
12月21日	第3管区海上保安本部	小笠原諸島からの救急患者搬送50回に対する感謝状贈呈式出席（村長同行）
	国土交通省 国土政策局長	意見交換
1月1日	成人式（父島）	式典出席
1月9日	くろしお丸内覧会	内覧会出席

# こんなことが決まりました

令和3年第4回定例会  
12月8日、10日

## 令和3年度一般会計補正予算（専決処分）を承認

- ✓ 新型コロナウイルス一掃期間協力金事業費増額分 2,000万円

## 指定管理者の指定

村の保有する施設の管理運営を委任する団体を、次のとおり指定しました。  
（指定の期間 令和4年度～6年度）

管理を委任する施設	指定した団体	施設管理費予定額（3ヶ年合計）
母島村民会館	小笠原村社会福祉協議会	27,549,996円

## 会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の改正

令和3年10月に東京都の地域別最低賃金に変更されたことに対応するための改正です。

## 小笠原村消防団条例の改正

消防団員の処遇改善を図りました  
団員の年額及び出勤報酬額の改定を行いました。

## 財産の取得（歯科ユニット）について

取得の目的 小笠原村診療所歯科診療備品更新のため  
契約の方法 指名競争入札  
契約金額 11,023,100円（税込）  
契約の相手 株式会社田中歯科器械店

## 令和3年度一般会計補正予算を可決 歳入歳出に総額1億8,499万4千円を追加 一般会計総額 56億423万7千円となりました。

### 主な項目

- ✓ 子育て世帯臨時特例給付金事業 2,900万円
- ✓ 新型コロナウイルス感染症対策事業 620万円
- ✓ 基金への積立 1億5,770万円
- ✓ 国庫支出金返納金 260万円
- ✓ 農業振興助成事業 394万円
- ✓ 硫黄島訪島事業費減額 △2,500万円 など

このほか、東京都市町村公平委員会共同設置規約の変更、小笠原村村税条例の一部改正、小笠原村国民健康保険条例の一部改正が可決されました。

このほかの議案等の審議結果は、小笠原村ホームページをご覧ください。

# 議員レポート

今年に入って小笠原でも地震が頻繁に起こり、トンガの海底火山噴火では小笠原にも津波注意報が発令され、90cmの津波が観測された。

幸い大きな被害はなく島民の皆様もホッとしている事と思うが、改めて防災について点検確認の必要性を感じた。今回の津波では国も予想できず村の防災無線の対応も遅れてしまったようだ。

また、避難所の開設も津波や地震だけではなく新型コロナウイルス感染症、台風などの複数の要因が重なる場合もある。島民一人一人の意識も重要だが村として職員の意識改革と感性を高めるためのシミュレーションを行い一貫した準備も必要だと感じた。村民の安全、安心をしっかりと担っていただくために万全の対応をお願いしたい。

編集部一同



この標識をご覧になったことがありますか？

津波などにおいて避難する場合の目安に、村内の電柱などに、その場所の海拔（地盤の高さ）が表示されています。

この機会に一度確認してみてください。

小笠原村の公式サイト→総務課→防災のページで津波のハザードマップなども確認することができます。

**会議での発言内容など詳しく知りたい時は、会議録をご覧ください。**

- 村役場議会事務局
- 地域福祉センター図書室
- 母島支所
- 母島村民会館図書室



で閲覧できます。

パソコンやスマートフォンなどでも見ることもできます。

小笠原村公式サイト→議会事務局→会議録で **検索**

平成24年の本会議、委員会から、会議録検索システムで閲覧・検索ができるようになりました。過去の会議については順次掲載する予定です。

## 令和4年第1回定例会会議日程表（予定）

月 日	開始時間	会議名	内容
3月10日（木）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
3月11日（金）	午前9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後3時	本会議	議案審議、 予算特別委員会設置
3月17日（木）	午前9時	令和4年度予算特別委員会	予算審議
3月18日（金）	午後2時	令和4年度予算特別委員会	予算審議
	午後4時	本会議	議案審議、予算採決

現時点での会議予定です。会議日程については変更がある場合がありますのでご容赦ください。

本会議、各委員会は傍聴できます。開会5分前まで傍聴受付を行っています。  
またテレビ11チャンネルで中継放送を、また、Youtubeでライブ配信を行います。  
ぜひご覧ください。



### 編集後記

議員になって楽しみの一つが元旦の成人式で新成人一人一人のスピーチを聞くことだった。残念なことに新型コロナウイルス感染症対策のため2年間議員での出席はできなかった。2年前に高校を卒業し内地へ旅立った彼らはコロナウィルスの洗礼を受け、見知らぬ土地で人との交流が難しい中、苦勞が多かったことだろう。しかし一人一人のスピーチからたくましく育っていることを感じる事ができたそうだった。

今年から18歳が成人という国の法律が施行される。成人式をいくつでやるかは各自治体でまちまち。当村においても現在検討中だそうだが、小笠原の子供たちにとって成人になるために内地の2年間は必要な期間だと感じる。

昨年12月の議会では令和2年度の決算特別委員会が行われ、歳入歳出とも前年を10億円強の増となった。その要因の一つとして新型コロナウイルス感染症対策としてコロナ禍にあっても学校の授業ができるようGIGAスクール事業を3年前倒しでやることになった。子供たち一人に1台タブレットが配布され教育のICT化が加速された。コロナ禍の中、講演や授業、会議等オンラインで行うことが一般化した。離島という地理的ハンデが少なくなり学ぶ意欲があればどこでも学べる時代がやってきた。原始社会において成人とは年齢に関係なく社会に役に立つ人だそうだった。法律上の成人がいくつでも真の成人とは、どんな人間なのか一生かけて学び続けていきたいものだ。

★議会だより編集委員

安藤重行 清水良一  
築館俊一

清水 良一